

五所川原第一高等学校 令和4年度 1学年だより「水平線」

第12号(通算第12号) 令和4年9月16日発行 文責:第1学年主任 柏崎健太郎

2学期が始まりました！

8月22日(月)から、2学期が始まりました。

1学年の123名が大きな事故もないまま、2学期を迎えることができたのは、学年主任として、とても安心しました。

しかし、夏休み中には、生徒やそのご家族の方が新型コロナウイルス感染症に罹患したとの報告を複数聞いています。高熱やのどの痛みが改善しても、体調がすぐれなかったり、気分が落ち込んだりするなど、いまだに大変な状況になっている人もいます。改めて罹患された皆さんには、心からお見舞いを申し上げます。

さらに、8月上旬には、大雨により田畑の冠水、住居の浸水、地滑りなどの被害を受けたご家庭もあるとの報告も聞いています。後片付けや住居の補修など、落ち着かない生活を過ごしている皆さんにも、心からお見舞いを申し上げます。

学年主任から生徒の皆さんへのメッセージ

さて、2学期が始まってから学校生活で気になる点があり、今回メッセージという形式で皆さんに伝えることにしました

それは、「人への接し方」です。

廊下ですれ違ったとき、放課後で教室に待機しているときなど、生徒の皆さんが発したことに違和感を覚えたことがあります。

「仲間を見下したようなことば」

「仲間の意見に耳を貸さない、自分中心のことば」

「仲間の頑張りを受け入れない、傷つくことば」

柏崎は、1学期と2学期の学年集会を通して、「ことば」は勇気を与えるものでもあるけれども、心を傷つけるものにもなると話しました。

皆さんは覚えていますか？

勉強でも、スポーツでも、パソコンの操作でも、人には得意なことや苦手なことがあるはずです。

皆さんは、すべてにおいてパーフェクトな存在ですか？

柏崎も、バレーボールやバスケットボールなど球技のスポーツは苦手です。
人には、得意なことや苦手なことがあるのです。

多くの人たちの中で私たちが生活していることを、改めて感じてください。

私たちは一人では生きていくことができない存在です。

仲間や友人の存在を否定することなく、多くの人たちを受け入れる広い気持ちをもつことも大切です。

私たちは、何気なく話したことばに、喜んだり悲しんだりもします。

傷つくようなことばを話したり、行動をしたりしても、その人は気が付かないことが多いものです。

改めて、お互いを認め合うことの大切さを知ってください。

このことは、我々先生方にも言えることだと考えています。

柏崎は、今週、先生方に「私たちのことばを裏表なく受け取る生徒もいるので、伝え方には気をつけていく必要がある」ことを伝えました。

我々先生方も生徒への伝え方に気を配っていきますから、生徒の皆さんもことばの伝え方には、少しでも思いを巡らせてください。

すぐには改善しなくても、学年のみんなですこずつ状況を変えていこうとする姿勢をもっていきましょう。

友人関係や仲間との付き合い方に悩む人が少しでも減ってくれることを願っています。

少なくとも、柏崎が悲しむようなことばを、仲間や友人たちに投げかけるようなことをしないように生活してくれれば、学年主任として嬉しく思います。

柏崎からのメッセージは、これで終わりです。

みんなで卒業式を迎えられるように、2学期を頑張っていきましょう！